

2020. 2. 29.

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行

TEL083-924-2111 FAX083-932-2817 <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

★メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★幼児のためのおはなし会

3月3日（火）の開催につきましては、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、中止させていただきます。

《2月のおはなし会で使った本》

『おふとんかいたら』 かがくいひろし/さく ブロンズ新社 2019

『きょうのぼんごはんなあーに?』 やべみつのり/脚本・絵 童心社 2008

『三びきのこぶた』（大型絵本） 瀬田貞二/やく 福音館書店 1998

◎申込み、連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2111 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【新刊紹介】 価格は消費税抜き

<絵本-乳幼児から>

『のりまき』 小西英子/さく 福音館書店 2019.12 ¥900

のりまきつくろう。まずはまきすを用意。大きなりをのせて、おすしのごはんを広げよう。その上に卵焼きにきゅうり、えびにあなごにかんぴょうしいたけ、はしからそうっと巻いていく。切ってみたら、わあおいしそう！いただきますーす！彩り豊かに描かれたのりまきの具材に食欲をそそられる食べ物絵本。2016年に発行された「こどものとも年少版」が幼児絵本シリーズで登場。

<絵本-3, 4歳から>

『おにぎりをつくる』 高山なおみ/文 長野陽一/写真 ブロンズ新社 2020.1 ¥1200

お米をカップにふたつ。くまさんの手にしてざくざくとぐ。お水を入れて30分おいたらスイッチオン。お塩とお水を用意して、手をぬらしておにぎりをにぎる。ごはんの炊き方からおにぎりを作るまでをわかりやすい写真と文で紹介。家に誰もいないとき、はらぺこのお腹におにぎりは「いのち玉」。子どもたちが自分ひとりでもできるように、という作者の思いが込められた絵本。

<絵本-小学校低学年から>

『ちいさなはなよめぎょうれつ』 ナルツィザ・ジミホフスカ/作 足達和子/訳 布川愛子/絵 偕成社 2019.12 ¥1300

ひいおばあさんのお姉さんが若かった頃のお話。ある時お姉さんが頭が痛くて家でひとり寝ていると、枕元に美男子の小さな人が現れ、王子と結婚する、自分の妹の花嫁行列が部屋を通るのを許してもらえまいかと言う。やがて花嫁と父をのせた白ねずみにひかれた馬車が来て、次々と花嫁行列が通過していき…。1876年にポーランドで作られたお話が可愛らしい絵本に。

『ウォッシュバーンさんがいえからでない13のりゆう』 中川ひろたか/作 高島那生/絵 文溪堂 2020.1 ¥1500

ウォッシュバーンさんは、家から一歩も外に出ない。なぜかって？外に出たら、ドアにはさまれるかも…カラスにつつかれるかも…落とし穴に落ちてしまうかも…かっこいいですねテレビに出ませんかって言われるかも…しれないから。いろいろなことが気になる外に出られなかったウォッシュバーンさんが、あつげなく外出するきっかけとなったのは？思わず笑ってしまうユーモア絵本。

<絵本-小学校中学年から>

『ちび竜』 工藤直子/文 あべ弘士/絵 童心社 2019.12 ¥1700

ちび竜は、小さなつぶから生まれた小さな竜。生まれたばかりのちび竜は、自分のツノやヒゲやハネがだんだん立派になり、神通力を使える『でか竜』になっていくことをボウフラたちから聞く。水たまりから飛び立ったちび竜は、色々な生き物たちとの出会いの中で、様々なことを教わり大きく強くたくましく成長していく。迫力のある絵と選り抜かれた言葉で紡がれた物語絵本。

『死んだかいぞく』 下田昌克/著 ポプラ社 2020.1 ¥1400

三日月の夜、海賊が凜され海へ放り投げられた。海賊はゆっくりと海に沈んでいく。大きな人喰いざめがやってきて、海賊は立派な帽子を奪われる。しわしわの魚には歯を、小さな青い魚には爪を、アンコウには目ん玉を、タコには髪の毛を持っていかれ、海賊はさらに沈んでいく。そして気がつくたくさんの魚に囲まれて…。徐々に変化していく海の色が美しい、生と死を感じる絵本。

<絵本-小学校高学年から>

『ちいさなタグボートのバラード』 ヨシフ・プロツキー/詩 イーゴリ・オレイニコフ/絵 沼野恭子/訳 東京外国語大学出版会 2019.11 ¥1900

僕はタグボート。港に入ってくる大型船をひいて停泊させるのが僕の仕事。乗組員たちと一緒にこの港で働いている。異郷の海への憧れはあるけれど、僕はここに残らなくちゃならない。他の船が僕を必要としているから…。一人称で語られるタグボートの思いと、ページいっぱい広がる海と空の景色が心に迫る。ノーベル文学賞受賞詩人と国際アンデルセン賞受賞画家による絵本。

<読み物-小学校低学年から>

『きれいずきのマグスおばさん』 イーディス・サッチャー・ハード/ぶん クレメント・ハード/え 小宮由/やく 大日本図書 2019.12 ¥1400

ある土曜日スージーはマグスおばさんと動物園に出かけることに。早速家に迎えに来てくれたおばさんだったが、家中の汚れが気になって掃除をしないと気が済まない。出かける途中も動物園に行っても、汚れが気になるおばさんだったが、そんなことどうでもいわずと目を覚まさせてくれる出来事が…。絵本から読み物に変わる時期にぴったりの絵本。 「こころのほんばこ」シリーズ。

『がっこうかっぱのおひっこし』 山本悦子/作 市居みか/絵 童心社 2019.12 ¥1200

6月になってもまだ友だちがいなくて1小1のぼく。休み時間は校門近くの池で生き物をみて過ごすのが日課。ある日この池の水を抜

く工事が始まることになり、手のひらに乗る位のかっぱを家まで連れて帰る。家で内緒で世話をしていたが、エサのきゅうりが手に入らずかっぱの元気がなくなっていく。この危機を乗り越えるには…。小1にありがちな不安な気持ちに寄り添うお話。

<読み物—小学校中学年から>

『びっくりしゃっくりトイレそうじ大作戦』 野村一秋/作 羽尻利門/絵 佼成出版社 2019.12 ¥1300

小4のぼくは今日も一人でトイレ掃除。班の仲間はさぼってばかりだ。掃除の後はビオトープで一人で休み時間を過ごす。そんなぼくに声をかけてきた校務員の林さん。前はハウスクリーニングの仕事をしていて、放課後に校内のトイレを点検して回っているという。その掃除の様子を見て感動したぼくは、この仕事を紹介したいと考える。トイレ掃除の奥深さがわかるお話。

<読み物—小学校高学年から>

『あの子の秘密』 村上雅郁/作 カシワイ/絵 フレーベル館 2019.12 ¥1400

小6の9月に転入してきた明来。人の心に踏みこめる持ち前の明るさで周囲に友だちをつくっていくが、どうにもうまくコミュニケーションをとれないのが小夜子だった。彼女には誰にも見えないイマジナリーフレンドの黒猫がおり、ふとした瞬間に、明来にも見えてしまう。そして実は、明来にも秘密があって…。第2回フレーベル館ものがたり新人賞大賞受賞作。著者初の出版本。

『雷のあとに』 中山聖子/作 岡本よしろう/絵 文研出版 2020.1 ¥1400

兄と睦まじくという思いでつけられた名前「睦子」。私の名前までお兄ちゃんを思ってつけたなんて、お母さんはお兄ちゃんのことばかり。いつもピリピリしているお母さんから逃げるように、睦子は学校帰りにハルおじさんの家に寄っていたが、ハルおじさんが病気で亡くなってしまった。中学生の兄と小5の睦子、母親のそれぞれの思いが交差する物語。著者は山口県在住。

<読み物—中学生から>

『天邪鬼な皇子と唐の黒猫』 渡辺仙州/作 ポプラ社 2020.1 ¥1500

おれさまは、蘇州で生まれ倭国に渡ってきた人語の話せる黒猫だ。生前は霸王と呼ばれる人間だったのかもしれない。この猫を飼うことになったのが、藤原氏に擁立された天皇の息子・定省（さだみ）。先帝崩御の後、皇太子となった彼の窮地を救うべく、黒猫が命がけで讃岐の菅原道真を訪ねる。平安京を舞台に猫の勢力争いと、人間世界の勢力争いが交錯するエンターテインメント小説。

『鐘を鳴らす子供たち』 古内一絵/作 小峰書店 2020.1 ¥1600

昭和22年、当時6年生だった良仁たちにラジオ放送劇への出演依頼が…。町に溢れている戦災孤児を救いたいとの、脚本家・菊井の強い思いがこもった作品だが、演じる子供たちは全くの素人。しかも全て生放送の一発勝負。子供たちの戸惑いや奮闘ぶりを回想形式で描く。1947年7月5日から半年間にわたって放送されたNHK連続ラジオ放送劇『鐘の鳴る丘』をモチーフとした物語。

<ノンフィクション—小学校低学年から>

『ゆきのけっしょう』 武田康男/監修・写真 小杉みのり/構成・文 岩崎書店 2019.12 ¥1300

ゆきのけっしょう。そらからふってきたふしぎなこおり。はじまりはつめたくしめたくものなか。ゆきのけっしょうはひとつひとつちがう。でもね、あかちゃんときはみんなおなじかたちだったんだよ。不思議できれいな雪の結晶の成長の様子が分かる写真絵本。実物大の大きさが示され、肉眼でも見ることができていることが分かる。監修者は、気象予報士で「空の探検家」。

<ノンフィクション—小学校中学年から>

『「走る図書館」が生まれた日』 シャーリー・グレン/作 渋谷弘子/訳 評論社 2019.12 ¥2400

1852年にニューハンプシャー州で誕生したティットコム。女学院を卒業後無給の司書見習いとして働き始め仕事を学んでいった。ワシントン郡公共図書館では、郡内のいたるところに本置き場を設置。1905年には本の方から住民に出向く「本の荷車」を走らせ、その後は「移動図書館車」に。「走る図書館」の生みの親であるティットコムの生涯をたどり、本にかけた思いを伝える。

『ちいさなフェミニスト宣言』 デルフィーヌ・ポーヴォワ/文 クレール・カンテ/絵 新行内美和/訳 現代書館 2020.1 ¥1800

男の子は男らしく…女の子は女らしく…？そんなのだから決めたの!! からだが強いのはすごいけど、そうじゃない男の子もいる。女の子はいつもおそうじをしているか、キラキラのドレスを着て笑っている…？まさか！もっと楽しいこといっぱいしたい！だれもが自分らしく生きる社会のために、個性あふれる子どもたちのマニフェストを集めたアンチ・セクシズム絵本。

<ノンフィクション—小学校高学年から>

『図書委員アイデアブック』 吉岡裕子・村上恭子/監修 あかね書房 2020.1 ¥4500

図書委員会ってどんな活動をしたらいいのかな。是非知っておいてほしい図書館の歴史や役割、本の並べ方などの図書館の基本や、本の紹介方法や読み聞かせ、ビブリオバトルなどのイベント、情報発信する方法など、すぐに真似できるアイデアを多くの学校図書館や展示物の写真やイラストで解説。コピーして使える型紙付き。図書委員会の活動に役立つ一冊。

<ノンフィクション—中学生から>

『ボランティアをやりたい! 高校生ボランティア・アワードに集まれ!』 さだまさし、風に立つライオン基金/編 岩波書店 2019.12 ¥820

さだまさしが設立した公益財団法人・風に立つライオン基金主催の「高校生ボランティア・アワード2019」に参加した高校生たちのボランティア活動を紹介。山口県からも2校が参加し、そのうちの宇部フロンティア大学附属香川高等学校ユネスコ部の「反射材付きポシュッとで交通事故防止」の取組が紹介されている。全国の高校生の活動の数々を知ることができる。岩波ジュニア新書。

<研究書>

『絵本でひらく心とことば 読み聞かせで発達支援』 本と子どもの発達を考える会/著 かもがわ出版 2019.12 ¥1800

支援の必要な子どもたちへの読み聞かせを20年以上続けてきた「本と子どもの発達を考える会」のメンバーが、テーマ別に絵本を紹介し、読み方やポイントをアドバイスする。実際に読み聞かせをした際の、子供たちの様子などを紹介したコラム欄も充実。言葉を育てる絵本、コミュニケーションが苦手な子や視覚支援が必要な子供に選んだ絵本など、おすすめ絵本を多数紹介。

『絵本がなくなると高齢者と子どもたち 高知発「本読み会」がコミュニティを再生』 森本ちか/著 くもん出版 2020.1 ¥700

高知で絵本店を経営する著者が実践している、絵本をきっかけに、子供と地域の方がふれあい繋がっていく「本読み会」の活動を紹介。200冊程度の絵本を持って、地域の高齢者とともに学校等へ行き、子供たちが好きな絵本を選んで、気に入った高齢者の方のところに持って行って絵本を読んでもらう。この練習なしで誰でも気軽にできる一対一の本読みにより地域が活性化してきたという。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索（OPAC）では検索できませんが、利用することは可能です。閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。